

## 第75回

# 広島県幼稚園教育研究大会 大会要項

## －フレーベル祭－

(Web開催)

日時 令和6年 6月3日(月) 14:50~16:30  
(入室 14:30~)



主催	広島大学附属三原幼稚園
共催	広島県国公立幼稚園・こども園連盟 広島県内幼稚園・保育園連絡協議会 三原市保育協議会
後援	広島県教育委員会 三原市教育委員会

## フレーベルの教育

教育の目的を人にやどる神性の完全な発達にあると考え、幼児教育の方法として創造的な自己活動である遊びを重視し、そのためさまざまな恩物（遊具）を考案した。

フレーベルの幼稚園の真の姿は、実に幼児が幼児らしく、はつらつさと、快活さと、美しさでいっぱいの楽しさに生きて、生きて、生き暮らすところにあり、現代の幼児教育の本質をここに求めることができる。

## フレーベル墓碑銘

“いざや我らが子らと共に生きん”

祭典（14：50～15：00）

開会の辞

挨拶 広島大学附属幼稚園（三原園舎） 園長 七木田 敦

献詞 広島大学附属幼稚園（三原園舎） 園長 七木田 敦

閉会の辞

講演（15：00～16：30）

講師紹介 広島県国公立幼稚園・こども園連盟 会長 木村 みゆき

講演 「わくわく遊ぶ子どもと保育者」  
聖心女子大学現代教養学部教育学科  
教授 河邊 貴子 先生

謝辞 広島県国公立幼稚園・こども園連盟 副会長 我妻 育子

Web 発信元

広島大学附属幼稚園（三原園舎）

TEL (0848) 62-4642

# フレーベル祭の歴史と意義について

Friedrich Froebel は、1782 年 4 月 21 日に生誕し、1852 年 6 月 21 日に没す

## 1. 発足

広島大学附属三原幼稚園創立 40 周年記念誌

池田勝人先生「附属幼稚園の追想」より抜粋

「昭和 25 年(1950)年 4 月 21 日(日)に、幼稚園の創立者フレーベル先生の生誕を記念し、その幼児教育の根本の理念を研究し、平素の我々の保育の反省のよすがとすべく『フレーベル祭』を主催した。幸い、広島大学内に長田新先生、荘司雅子先生のようなこの道の大家がおられご指導を仰ぐことができ、当日もフレーベル先生の幼児教育の根本精神についての、熱意ある講演を拝聴して、感銘深いものがありました。—中略—これ以来毎年広島県では、春の幼稚園行事としてフレーベル祭がもたれた。

## 2. 経緯

第 1 回	1950(昭和 25)年	4 月 21 日	三原(広大三原分校講堂・附属三原)
第 2 回	1951(昭和 26)年	5 月 3 日	広島(広島市農協会館・附属三原)
第 3 回	1952(昭和 27)年	5 月 3 日	三原(広大三原分校講堂・附属三原)
第 4 回	1953(昭和 28)年	5 月 7・8 日	三原(広大三原分校講堂・附属三原)
第 5 回	1954(昭和 29)年	5 月 2・3 日	広島(安田学園講堂・私立的場幼)

第 4 回までは広島大学附属三原幼稚園がフレーベル祭の事務局として企画運営していたが、第 5 回よりフレーベル祭準備委員会が設立され、委員は広島県幼稚園協議会理事が兼ね、フレーベル祭の担当が分担された。但し、当時はまだ幼稚園数も少なかったため、地区担当ではなく各園の担当で、準備委員会は担当園で開催されていた。

また、幼稚園協議会も年 1 回であったのが、この回より準備委員会を持つため 2 回となる。

なお、当時は(土)(日)、(日)(祭日)のように 2 日間もち、午前中に式典と講演を、午後と翌日には講習会や研修会を行っていた。

第 6 回	1955(昭和 30)年	5 月 7・8 日	福山(福山市公会堂・公立福山西幼)
第 7 回	1956(昭和 31)年	5 月 9 日	呉(本願寺会館・担当は不明)

この回より日曜日の 1 日だけになった。

第 8 回	1957(昭和 32)年	5 月 19 日	広島(広大教育学部大講義室・教育学部)
-------	--------------	----------	---------------------

第 9 回 1958(昭和 33)年 4 月 21 日(月) 因島(日立因島会館)

この回より日曜日をはずすようになった。また、担当園が担当地区になる

第 10 回 1959(昭和 34)年 4 月 21 日(火) 三原(広大三原分校講堂)

第 11 回 1960(昭和 35)年 4 月 26 日(火) 竹原(竹原小学校講堂)

第 12 回 1961(昭和 36)年 5 月 2 日(火) 尾道(土堂小学校講堂)

第 13 回 1962(昭和 37)年 6 月 9 日(土) 広島(広島市労働会館ホール)

この回より 4 月、5 月は入園・始業などで多忙のため 6 月になったのが、現在にいたっている。

第 56 回 2005(平成 17)年 6 月 10 日(金) 福山(福山市中央公民館)

第 57 回 2006(平成 18)年 5 月 17 日(水) 三原(広島大学附属三原幼稚園遊戯室)

この回より再び広島大学附属三原幼稚園がフレーベル祭の主催園となり、企画運営を行う。

### 3. 意義

フレーベル祭の意義は次の 3 点にまとめられる。

1. 保育の原点に返り、保育の反省を伴いながら保育者の資質を高める。
2. 広島県の幼児教育を高めていく。
3. 広島県の幼児教育に携わっている者の交流を図り、親睦を深める。

### 4. 主催・後援

第 1 回から第 4 回までは、主催：広島県幼稚園協議会、後援：無し。

第 5 回から担当が分担され、独自性を重視した企画運営になった。

主催：広島県幼稚園協議会、県私立幼稚園連盟、県国公立幼稚園連盟、広島市幼稚園協会

後援：広島県、広島県教育委員会

第 6 回は前回の主催に担当地区の教育委員会が加わる。

第 8 回から保育所が加わっている。

主催：幼稚園協議会、広島大学幼年教育研究会、広島県保育連盟連合会

後援：広島県教育委員会と担当地区の教育委員会、広島大学教育学部社会科視聴覚教育研究会、NHK、ラジオ中国、中国新聞社。

第 9 回から担当園から担当地区に変わり、前回主催に担当地区園長会、後援に担当市が加わる。

第 10 回に新しいスタイルに整理される。

主催：広島県幼稚園協議会

後援：広島県、広島県教育委員会、担当地区教育委員会、保育所を含む保育会

第 11 回から後援の保育所を含む保育会がなくなる。担当地区によって保育所がない地区があるためか、理由不明。

第 32 回は後援：担当地区教育委員会のみとなり、現在にいたる。変更になった時期は不明。

第 57 回から主催は広島大学附属三原幼稚園となる。

## 5. 会計補助

(1) 第 1 回(昭和 25 年度)～第 4 回(昭和 28 年度)

事務局が実費支出で運営した。

(2) 第 5 回(昭和 29 年度)～第 56 回(平成 17 年度)

第 5 回より担当地区への協議会から補助を行った。

補助金の経緯は次のとおり

第 5 回(昭和 29 年度)	5,000 円	第 24 回(昭和 48 年度)	10,000 円
第 28 回(昭和 52 年度)	20,000 円	第 33 回(昭和 57 年度)	50,000 円
第 37 回(昭和 61 年度)	150,000 円		

なお、開催にあたっては、毎回主催・後援団体より補助を受けてきた。担当地区より多少の差異はあったが、前年度の 10 月頃補助申請を教育委員会に提出してきた。

(3) 第 57 回(平成 18 年度)より

附属三原(事務局)が主催園となり運営する。(主催園が実費支出)

(4) 第 58 回(平成 19 年度)以降

広島県国公立幼稚園連盟より補助金(50,000 円)を得る。

付記

本資料「3. 意義」については、今日の保育の実態に鑑み「2. 3. の幼稚園教育」を「幼児教育」に変更した。第 58 回(平成 19 年度)より。

---

フロードリヒ・ヴィルヘルム・アウダスト・フレーベル 略年譜

---

- 1782 4・21 東独チューリンゲン地方の南部オーバーワイスバッハに牧師の末子として誕生
- 1783 9ヶ月 母, 死亡。
- 1785 4才 父, 再婚。
- 1789 8才 女子国民学校に入学。
- 1792 10才 母方の伯父, ホフマンにひきとられる。
- 1797 15才 林務官見習。
- 1799 17才 イエナ大学, 哲学科入学。
- 1801 19才 学資金滞納のため9週間監禁され退学。農夫。
- 1802 20才 父(74才)死亡。森林局書記。
- 1805 23才 伯父ホフマン死亡。4月フランクフルト・アム・マインの模範学校教師。  
8月末イヴェルドンのペスタロッチ学園に2週間実地見学。
- 1807 25才 フォン・ホルツハウゼンの3児の家庭教師。
- 1808 26才 3児を連れ, ペスタロッチ学園に2年間滞在しペスタロッチの教授法を研究。
- 1811 29才 ゲッチンゲン大学入学。鉱物結晶学に興味を覚える。
- 1812 30才 ベルリン大学転学。
- 1813 31才 対ナポレオン戦争の義勇軍として従軍。ランゲタールとミッデンドルフと相識る
- 1814 32才 ベルリン大学鉱物学助手。

- 1816 34 才 グリースハイムに「一般ドイツ教育所」開設。幼児 5 人を育てる。
- 1817 35 才 カイルハウに学園開設。
- 15 年間学校経営，最盛期は児童 56 名ミッデンドルフとラゲントール参加。
- 教師 20 名余りとなる。
- 1818 36 才 ヘンリエッチ・ウイルヘルミネ（38 才）と結婚。
- 夫人はよき助手，協力者となる。
- 1820 38 才 兄クリスティアン家族と共にフレーベルの教育事業に参加。
- 1826 44 才 カイルハウ学園財政難に陥る。
- 主著「人間教育」（*Menschen erziehung*）上梓。
- 1831 49 才 スイス，ワルテンゼーに転じて教育事業を継続する。
- 1832 50 才 ウィルザウに再転して教育事業を継続する。
- 1835 53 才 ブルグドルフにて孤児院長となる。幼児教育の思想熱す。
- 1837 55 才 ブランケンブルクに 6 才以下の幼児 40 名を集め，「遊びおよび作業教育所」を開設，経営する。
- 1838 56 才 教育遊具「恩物」を考案し制作販売する。
- 1839 57 才 ウイルヘルミネ夫人（59 才）ブランケンブルクで死亡。
- 1840 58 才 幼児教育指導者第 1 回講習科開設。「遊びと作業教育所」を付設，後に「キンダーガルテン」と名称（5 月 1 日）。

世界最初の幼稚園誕生。全国を遊説。各地に幼稚園起こる。

1844 62 才 「母の歌と愛撫の歌」を著す。

1848 66 才 ハードルシュタットに一般ドイツ教育者会議を主催する。

1849 67 才 リーベンシュタインに移住し、幼稚園を開設する。

マーレンホルツ・ビューロー夫人と識る。

1850 68 才 マリエンタールに移住し、幼稚園と保母養成所を開設する。

幼稚園の後継者ビューロー夫人は、長く幼稚園教育の普及に献身する。

1851 69 才 6月、レヴィン・ルイゼ（36才）と再婚。プロイセン政府に、幼稚園の閉鎖を

命じられる。（プロイセン幼稚園禁止令）ザクセン政府之に倣う。

革命的自由主義弾圧の余波を受けたものである。フレーベル,弁明に努め

たるも禁止令解除されず。

1852 70 才 6月21日、病により同志女生徒に見守られつつ、マリエンタールで永眠す。

1860 永眠後8年、ビューロー女史の努力により、幼稚園禁止令が解除され女史

の講演巡遊により、各国に続々幼稚園が生まれる。（女史は1893年、82才の高齢で没した）。

1876 フレーベル永眠後24年、明治9年、東京女子師範学校（お茶の水大学の前身）に日本最初の附属幼稚園を設立す。

講演

「わくわく遊ぶ子どもと保育者」

聖心女子大学現代教養学部教育学科  
教授 河邊 貴子 先生